

ジュンセイ 進誓 石川郡松任眞宗東派本誓寺の祖。正安二年正月十五日寂した。

ジュンセイコウ 淳正公 前田利嗣の諡號。利嗣は神葬を用ひたから法號はない。

ジュンソウドウシユウ 春草堂集 二十一卷十六册。大田錦城が天明三年十九歳の時から文政二年五十五歳に至る間の詩文を編年に集成したもので、第廿一卷には制作の年月明らかならざるものと、寛政元年の梅花赤城記とがある。世に行はれる錦城文録は、春草堂集中の文を抜いたものゝ如くである。

ジュンソウマル 駿相丸 加賀藩の帆船船。西洋千八百五十五年打立。原名ウワエルダリヤ。木製長さ十一間一尺七寸幅三間五尺七寸。噸數百五十八。慶應三年五月長崎に於いて之を購入した。

ジュンドウホウケイ 春藤鳳兮 鳳至郡小路の人。本姓は安藤氏、叔明の弟である。出で、春藤氏を嗣ぎ、俳諧を蒼虬・梅室の門に學んで、諸國を歴遊した。明治十年六十歳を以て歿。

ジュントクイン 峻徳院 大聖寺藩主第八代前田利考の法號。詳しくは峻徳院僉岳明恭大居士。

ジュントクテンノウ 順徳天皇 承久三年の事變の後、北條義時は三上皇を播遷せしめ奉つたが、その中順徳上皇は、七月二十日京を發して佐渡に向かはせ給うた。花山院少將能氏・左兵衛佐範經・上北面左衛門大夫藤光等之に供奉し、女房二人亦従うた。而して能氏は病んで路から歸り、範經も亦重患に罹つて越後に留つたが、御船は寺泊を發して佐渡に著いたといふ。遷幸の途次既にかくの如くで

あれば、この時加賀を通過し給うたことは明らかであるが、それを書いた文獻は一もないやうである。後明治六年十月七日順徳天皇の神靈を攝津水無瀨宮に合祀することを布告せられ、翌七年五月廿九日河北郡津幡に、三十日金澤に、三十一日石川郡松任に、六月一日能美郡小松に、二日江沼郡大聖寺に御味證の上遷幸し給うた。

ジュンノヤマ 順尾山 河北郡板谷・石黒又・古郷寺・町・平下各部落の持山である。正徳享保の頃銀鏡を試掘したが得なかつた。高さ圖上測定八三六米。地質係雜系。

ジュンボウ 俊鳳 ↓リンケイジュンボウ 林穂俊鳳。

ジュンヨウシ 順養子 ↓サンノイチ 三の一。

ジュンヨミヨウチヨウ 春譽妙登 前田利長の室玉泉院夫人の生母で、織田信長の側室。金澤八坂鶴林寺の境内にその墳墓がある。同寺が越中守山に在つた時、元和四年三月三日逝去して春譽妙澄大姉と號し、遺骸を寺中に移されたのを、更に金澤に轉葬したものと云ふ。

ジュンレイ 荀靈 淨土宗の僧。字は本譽。小松の人。金澤に出で、三光寺に投じ、十五歳江戸に往き、増上寺業譽上人に從うて鎮西流を傳へた。後本國に歸り住すること一年、復出遊して京都嵯峨の平山に庵居し、次いで大和の光明寺に住すること四年、日課の念佛六萬聲を履行した。承應元年三月寂、四十歳。

ジュンレイ 順禮 前田利長に仕へた松村總次郎は、嘗て北野千本の勸進相撲に臨み、

七日間に三十三番を角して、一たびも敗れなかつたから、世人呼んで順禮といふた。その後慶長九年七月十七日結城秀康が、父徳川家康を伏見邸に招いた時、順禮越前の嵐追手と争うて負けたが、順禮の名も亦一世に喧傳せられたことは、竹齋物語に北野神社境内の光景を叙して、『又有かたを見てあれば、あらしおひて、じゆんれい、こぎつね、やけなべ、ひんせうが、すまふをこそははじめけれ。』と言へるを以て知るべく、こは嵐追手・順禮を力士の代表的名稱として擧げたのである。或はいふ。加賀藩では順禮が他藩のものに敗れたことを耻ぢ、その後相撲の徒を諱することなく、別に勢力ある者を集めて手木組の一隊を編成せしめた。しかし、利常の時にも尚相撲の者といふのがあつたから、前説は非であらう。可觀小説では順禮を戸川宗尹とし、七十餘歳で病死したとしてゐる。

ジュンレイイン 春嶺院 加賀藩主第五代前田綱紀の養女で、三條西公彌夫人になつた誠婦の法號。詳しくは春嶺院晴山貞照大姉。

ジョイツカン 徐一貫 文祿二年明の媾和正使謝用梓及び副使徐一貫は、五月十五日肥前名護屋に來著した。秀吉乃ち前田利家をして一貫を賓待せしめ、徳川家康をして用梓を享備せしめて廿一日に及び、後諸將相代つてその任に當つた。一貫の書跡は、越中安厨寺に抱翠樓の幅があり、鹿島郡永光寺には「孝弟(佛)通神明。忠信行□(燈)箱。積善來百祥。是名作因果。言爲百代師。行爲天下法。久久不可掩。是名不壞身。仁人之安宅。義人之正路。行之誠且久。是名光明藏。道德備一身。功德被萬物。爲賢爲大聖。」

シヨウ 庄 江沼郡那谷谷に屬する部落。加賀志徴には、江沼の那家の所在はこの地なるべく、後に庄園となつて那家庄と稱したのが、單に庄といふやうになつたのであらうとの説を立てゝゐる。又關屋政春の古兵談に、江沼郡の一揆大將庄四郎丸とあるのは、この地の人であらうといふてゐる。

シヨウ 庄 河北郡井上庄に屬する部落。津幡宿の能登口に連綿し、古町ともいふた。加賀志徴に、この地もと井家庄といふたのが省略せられたのであらうとする。

シヨウアンジ 聖安寺 鹿島郡岡に在つて、眞宗東派に屬する。

シヨウアンジ 勝安寺 珠洲郡嶋島に在つて、眞宗東派に屬する。

シヨウアンジ 淨安寺 金澤野田寺町に在つて、炭松山と號し、淨土宗に屬する。開山貞蓮社白髮炭松は尾張の人であつたが、天正中前田利家の金澤に入部した後この地に來り、古寺町に寺地を賜うて之に居たが、利常の世元和元年今の地を得て移つた。當寺本尊の阿彌陀尊は大像で、金澤では大佛と呼ばれる。

シヨウアンジ 淨安寺 羽咋郡今濱に在つて、眞宗東派に屬する。

シヨウアンチカン 照庵智鑑 曹洞宗の僧。初め祖繼大智に參したが、後に松岸旨淵から印可を受け、能登の永光寺に住し、同國孝恩寺に移り、長松寺を創めて開山となつた。

シヨウアンマチ 昌安町 金澤千日町の街尾に在つたといふ。文政年中隈川洪水のため